

Title	韓国のルーテル教会の現況と歴史(1)
Author(s)	宮本, 悟
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.20-2 : 2-4
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=2427
Rights	

聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

韓国のルーテル教会の現況と歴史 (1)

宮本 悟

1. 韓国のルーテル教会の現況

「キリスト者は日本では少なく、韓国では多い」というのは知られているし、事実である。ただし、教派ごとに見ると、日本では多くて韓国では少ないものもある。その一つが、マルティン・ルターの宗教改革に起源を持つルーテル教会である（ルター派ともいう）。エキュメニカル運動への参加を目的としているルーテル世界連盟（LWF）の2009年の報告書によると、日本のルーテル教会の信徒数が32,449名に対して、韓国のルーテル教会では4,856名である。LWFが把握するルーテル教会だけでも世界全体で7,400万近い信徒がいることを考えると、日本の信徒数も多いとはいえないが、韓国のルーテル教会信徒数は、日韓の総人口の違いを考慮してもさらに少ないといえよう。

しかし、ルーテル教会は、韓国のプロテスタント伝道で重要な足跡を残している。朝鮮半島を最初に訪れたプロテスタント宣教師は、ドイツ福音ルーテル教会に属していた。その宣教師は、現存する最古の日本語訳新約聖書（ヨハネ福音書）を記したことで日本でも有名なカール・ギュツラフ（Karl Friedrich August Gutzlaff）である。ギュツラフは、渤海湾から朝鮮半島沿いに黄海を南下して沖縄に至る東インド会社の軍艦に搭乗し、所々で朝鮮半島に上陸する機会があった。朝鮮半島を南下した期間は1832年7月17日から8月11日であり、7月23日頃から滞在した古代島で地元の住民に漢文訳聖書を配り、主の祈りや葡萄酒の作り方を教えた。もちろん、ギュツラフの伝道は短期間のものであり、その後のプロテスタント伝道に与えた影響はほとんどないが、歴史上では重要な足跡として評価されている。

ギュツラフの足跡にもかかわらず、ルーテル教会が韓国で伝道を始めたのは、他のプロテスタント教団に比べると非常に遅かった。基督教韓国ル

ター会（LCK）によると、韓国におけるルーテル教会の伝道は、米国のルーテル教会ミズーリ・シノッド（LCMS）によって、1958年から始められたことになっている。ギュツラフの伝道から126年後のことであり、韓国プロテスタント伝道最初の年とされる1885年からすでに73年が経過していた。韓国のルーテル教会はまだ約50年の歴史しかない。1885年に伝道を始めた長老教会やメソジスト教会が現在の韓国プロテスタントの大多数を占めていることを考えれば、伝道始めるのが遅かったことが、韓国においてルーテル教会信徒が少数に止まっている要因の一つであろう。

韓国におけるルーテル教会の伝道は日本に比べても遅い。日本におけるルーテル教会の伝道は、米国の南部一致シノッドから派遣された宣教師であるシエラー（James A. B. Scherer）とピーリー（R. B. Peery）によって、1893年の復活祭に九州の佐賀で行われた礼拝が最初とされている。また、これが日本福音ルーテル教会の起源でもある。日本でプロテスタント伝道が始まった1859年から34年も経った後のことであり、日本のルーテル教会の伝道もそれほど早くはない。それでも、すでに120年近い歴史がある。

歴史の長さに加えて、日韓ではルーテル教団の数にも差がある。歴史の短い韓国のルーテル教団は、現在でも基督教韓国ルター会しかない。しかし、日本では様々な起源を持った複数のルーテル教団が存在する。戦前のルーテル教団は現在の日本福音ルーテル教会の前身となった教団だけであったが、戦後には米国やヨーロッパから来日した新たな宣教師が伝道を始め、現在では複数のルーテル教団が日本で伝道している。すなわち、日本福音ルーテル教会や日本ルーテル教団、西日本福音ルーテル教会、近畿福音ルーテル教会、フェローシップ・ディコンリー福音教団、日本ルーテル同胞教団、ルーテル福音キリスト教会などである。この教団の数の違いと歴史の長さが、ルーテ

ル教会の信徒は日本では多くて、韓国では少ない要因の一つであろう。

たしかに、基督教韓国ルター会は、韓国で最も小さなプロテスタント教団の一つではあるが、見方を変えて、同じくLCMSを母体とする日本ルーテル教団と比較した場合、基督教韓国ルター会はむしろ良く発展してきたとも評価できる。日本ルーテル教団の伝道開始は1948年であり、基督教韓国ルター会よりも10年早い。それでも、LWFによると2009年に日本ルーテル教団の信徒数が2,645名であり、基督教韓国ルター会が4,856名であった。歴史は短くとも、基督教韓国ルター会は日本ルーテル教団の約2倍の信徒を持つに至っているのである。

また、基督教韓国ルター会と日本ルーテル教団が共にLCMSを母体としていることは、日韓ルーテル教会の交流でも大きな役割を果たしている。基督教韓国ルター会は、日本ルーテル教団を窓口として、日本福音ルーテル教会や西日本福音ルーテル教会、近畿福音ルーテル教会と交流している。1987年5月4日に基督教韓国ルター会と日本のルーテル4教団は「日韓両国ルーテル教会の宣教協力に関する宣言」を発表した。それは、宣教活動などでの協力や教会間の人的交流、神学や教会教育などの成果や方策の交流を図るものである。現在に至るまでその交流や協力は続いており、日韓キリスト教会の交流における一角を占めている。

現在、基督教韓国ルター会は民間放送である「ルーテル・アワー放送」や出版社である「コンコルディア社」、研究機関である「韓国ベテル聖書研究院」、教育機関である「ルター大学校」などの事業を活発に行っている。さらに、45カ所の教会と1カ所の在韓外国人教会を持ち、全国すべての道（日本の県に相当）に展開している。とても信徒が約5千名しかいない教団とは思えない活動ぶりである。2010年7月にはソウル市南部の松坡区新川洞に建築中の地上24階、地下5階の「ル

ター会館」が竣工し、長年にわたって使用されたソウル駅近くの建物にある本部もそこに移動する。基督教韓国ルター会の新しい歩みが、今年から再び始まるといえよう。

2. ルーテル教会による韓国伝道の開始

基督教韓国ルター会の歴史はLCMSの伝道によって始められるのであるが、それはLCMSの宣教部常任総務代理であったヘルマン・コッペルマン (Herman H. Koppelman) 牧師が1952年7月17日から22日かけて韓国を訪問したことに端を発する。彼は、韓国が宣教に適しているとLCMSに報告し、1953年6月に開催されたLCMSのヒューストン総会で、時が来れば韓国での伝道を許可することが決議された。それはLCMSには、すでに数名の韓国人留学生がいたことも要因の一つである。その中に、韓国におけるルーテル教会の伝道に重要な役割を果たすことになる池元溶 (チ・ウォンヨン) もいた。彼は、1950年9月からセントルイスにあるコンコルディア神学校の学生であり、1957年6月4日に神学博士号を取得することになる。

LCMS執行部は、1957年4月4日から5日の会合で韓国での伝道を許可した。同年5月1日にLCMS海外宣教部は3名の米国人宣教師ともうすぐ牧師になる1名の韓国人を韓国での最初の伝道者として任命した。3名の宣教師はポール・バートリング (Paul Bartling) とメイナード・ドロウ (Maynard Dorow)、カート・ヴォス (Kurt E. Voss) であり、韓国人が池元溶であった。ビザ発給が遅れたため、3名の宣教師は日本を経由して、1958年1月13日にソウルの金浦空港に到着した。伝道者に任命された時にはまだ牧師の按手を受けていなかった池元溶は、博士号取得の2ヶ月後に牧師の按手を受け、ミネソタ州セントポールで副牧師を約1年間努めた後、1958年9月26日に韓国に帰国した。

3名の宣教師達が韓国に到着して最初に巻き込

まれた困難は、当時の韓国キリスト教界内の対立がいかに深かったかを示している。3名の宣教師が金浦空港に降り立ったとき、どこで知ったか、長老教会の軍牧が韓国キリスト教団体の人々を集めて、歓迎のために迎えに来ていた。他にもそういう団体がいた。各団体は韓国でルーテル教会が伝道できるようにしたのは自分達であると主張した。ある団体は、自分達がルーテル信徒であるとも主張していた。そして、毎日のように宿所に訪ねて来て、既存の教会に対する不満を述べ、3名の宣教師に協調や提携を要請してきた。基金や物質的援助を求めてくることもあったという。要は、新たに韓国に来たルーテル教会を自分の味方に引き入れたかったのである。

もともと3名の宣教師達は、既存の教会を支援に来たわけではない。池元溶の実弟である池元祥（後、牧師）も、既存のどの団体にも加担しないことを宣教師達に勧めた。そこで、伝道のために新たに創設された韓国ルター教宣教師部（KLM：後の基督教韓国ルター会）は、1958年3月に週刊紙である『韓国基督時報』（15日）と『基督公報』（26日）に広告欄を出して、どの団体や個人にも加担しないことを明らかにした。3月26日に韓国ルター教宣教師部は最初の会議を開催し、どの団体や個人にも加担しないなどの伝道の原則を確認した。その原則は、現在では以下のように伝わっている。

1. 既存教会の不满勢力と連帯しない
2. 既存教派と不必要な競争をしない
3. 韓国キリスト教界の助けになるよう努める
4. ルターの神学と宗教改革の遺産を広く伝える
5. 他の教会と連係して主の御国を拡げる

この伝道の原則は、『韓国基督時報』や『基督公報』の広告欄に出た内容とおおよそ一致している。現在の基督教韓国ルター会では、これを「清らかな出発」と呼んでいる。教会内や教派間の対立が多かった当時の韓国キリスト教界において、どことも徒党を組まず、他の教派を批判しなかつ

たことを現在でも基督教韓国ルター会は誇りにしているのである。

現在の基督教韓国ルター会は、ウェブサイトなどで最初の伝道の年を1958年と紹介している。しかし、それは宣教師が来韓した年であって、実際の伝道活動は1959年に入ってからであった。それは、まず宣教師達が韓国語を習得する必要があり、その他にも様々な準備が必要であったためと推察される。韓国ルター教宣教師部による最初の韓国語の伝道活動は、1959年2月15日にソウル市鍾路区にあるソウルYMCAの会議室で開催された伝道集会であった。参席者は34名であったという。5月17日には、韓国最初のルーテル教会としてインマヌエル・ルター教会（後の道峰ルター教会）が設立され、同日に最初の洗礼を6名が受け（1名は池元溶の息子）、最初の堅信礼を7名が受けた。こうして、ルーテル教会の韓国伝道が始まった。

参考文献

- The Lutheran World Federation 2009 Membership Figures*,
http://www.lutheranworld.org/LWF_Documents/LWF-Statistics-2009.pdf (2010年6月29日アクセス)
- 基督教韓国ルター会「ルター教会の歴史と宣教」
http://www.lck.or.kr/lck/main/daedalus_contents.php?number=130 (2010年6月29日アクセス)
- 池元溶『韓国ルター教史』（ソウル、コンコルディア社、1989年）
- 日本福音ルーテル教会「ルーテル教会とは」<http://www.jelc.or.jp/about> (2010年6月29日アクセス)
- 日本ルーテル教団「ルーテル教会とは」<http://www.jlc.or.jp> (2010年4月29日アクセス)。
- 朴成完 編『韓国ルター教会宣教50周年史料集』（ソウル、コンコルディア社、2008年）

註：韓国では一般的に「ルーテル」という発音は使わないので、韓国語原文や固有名詞をそのまま訳すときには「ルター」を使った。

（みやもと・さとる 聖学院大学総合研究所准教授）